

橋本健一郎氏の7月銅レポート及び8月見通し

■概況:前半は6月の中国製造業PMI指数が50.1に悪化した事やユーロ圏製造業PMI指数が48.8と23カ月連続で景気判断の50を下回るなどマイナス材料はあったが、政局が混乱しているポルトガルで連立政権が樹立、財政再建が進むとの思惑や6月の米雇用統計の非農業部門雇用者数が予測を大幅に上回った事を好感し6923ドル(セツル)と前月最終価格より173ドル上げての前半締めとなった。

後半は中国人民銀行が貸し出し金利の下限を撤廃した事、日本の参議院選挙で自民党が圧勝し衆・参議院でのねじれが解消した事、6月の米鉱工業生産が+0.3%上昇するなどプラス材料もあったが、中国の4-6月期のGDPが+7.5%と0.2ポイント悪化した事、6月の米小売売上高が+0.4%、中古住宅販売件数が-1.2%と予測を下回ったこと7月の中国HSBCのPMI指数が47.7%と11カ月ぶりに悪化3カ月連続50を下回った事などを嫌気し一時6800ドル割れまで下落した。

その後7月中国製造業PMI指数が予測を上回る50.3と景気判断の50を上回った事や7月の米雇用統計で失業率が7.4%と08年12月以来の低水準となった事を好感。8月3日現在、前半締めから96ドル上昇の7019ドル、建値71万円のスタートとなった。

■前月の経済指標:日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-9.5%の89万3145台であった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比-13.5%の28万4314台。国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+15.3%の8万3703戸であった。

貿易関連指標を見ると、財務省貿易統計による輸出は、前年比で電気銅が-7.1%、4万774t、スクラップが+31%の3万127t。輸入は、電気銅が前年比+66.2%5415t、スクラップ-28.7%の3964t。

前月の国内指標を見ると、日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば前年比-3.6%の6万6440t。日本電線工業会発表の銅電線出荷速報(推定)は前年比-5.8%の5万4000tであった。

■見通し:7月は中国景気後退懸念と対策・米国金融緩和縮小時期に一喜一憂した月となった。中国の4-6月期のGDPが+7.5%と0.2ポイント減少したがその対策について当局のコメントが右往左往したことやFRBバーナンキ議長金融緩和縮小時期についてのコメントが時期を決めない方向に変化し出した。

自動車生産は前年比-9.5%の10カ月連続マイナス。国内向け-10.8、輸出向け生産-4.5%と共にマイナスへ。販売の方は2カ月連続二桁悪化、前年比割れの-13.8%。貨物車は前年並みだったものの、乗用車が小型-20、普通-10%と共にマイナスだった。

新設住宅着工戸数は先月に続き10カ月連続増加となり前年比+15.3%(前月比(季節調整済み)-5%)の8万3704戸。今月も唯一堅調な住宅関連。分譲住宅+24.3マンションが+46.3%と大幅増。ここ最近の消費マインドの改善。消費税、住宅減税その他の政策の動向に注目。

伸銅品生産量は前年比-3.6%の6万6440tと8カ月連続前年割れ。輸出は円安を追い風に3カ月連続前年プラス。ただ需要期のエアコン銅管が-7%と予想外の22カ月連続マイナス、黄銅棒も-1.7%の3カ月連続1万5千t割れ。銅電線出

	4月	5月	6月
生産台数	74万 7130台	73万 2714台	89万 3145台
前年比	-6.5%	-6.2%	-9.5%
	5月	6月	7月
販売台数	21万 9099台	26万 6913台	28万 4314台
前年比	-7.3%	-15.8%	-13.5%
	4月	5月	6月
新設住宅着工数	7万 7804戸	7万 9761戸	8万 3704戸
前年比	+5.8%	+9.4%	+15.3%

亜鉛くず 現金高価買取
亜鉛ドross・洋 ご照会乞う

再生亜鉛精錬

日進産業株式会社


代表取締役 星山美知子

〒580-0006 松原市大堀1丁目7-30
TEL 0723-31-3945代表
FAX 0723-31-3974

製造並びに販売

テフロン電線
ノーメックス巻線
ガラス巻線・綿巻線
錫引線・ビニル線
耐熱ビニル線
銅編組線

LN□出し線
NNFFゴム平行
ポリエステル線
絶縁材料一式

 **田中電線**

本社 大阪市福島区海老江1丁目2番20号
TEL (06) 6458-3561内
東京営業所 東京都港区芝浦1丁目9番5号
TEL (03) 3455-0651内

荷量は前年比-5.8%の54千tと7カ月ぶりマイナス。うち国内が-5.2%、輸出が-33.5%と大幅悪化。建設、電販が+4.1%以外はほぼ二桁近いマイナス。

輸出に関しては、電気銅輸出が前年比-7.1%の4万774tと減少。銅スクラップは+31%の3万127t。円安によるスクラップ輸出の増加とそれによる国内材料不足からの電気銅需要から。輸入は電気銅が+66.6%の5415t。スクラップは-28.7%の3964t。電気銅は国内スクラップ不足から増加。スクラップは円安による割高感から大幅減少。

銅需給に関しては、住宅関連は新設住宅着工数が前年比+15.3%10カ月連続増加、分譲マンション+46.3住宅+24%と絶好調。ただ自動車は生産が10カ月連続前年割れが続き内需不安から不透明。6月の国内販売台数も-13.8%と大幅悪化。消費税増税前の駆け込み需要以外は目新しい需要増材料はなく、また来年以降の話であることから現実味に欠ける。また中国景気後退懸念や米国金周緩和縮小時期の延長のため100円を超える円安も望めず内需は停滞モード。

銅価格に関しては、中国の経済政策に一喜一憂する事が予測される。先月の懸念材料であった米国の金融緩和縮小は米景気が回復基調であるが縮小時期として上がっていた9月、12月共に期限を設けないとの見解から一旦は終息。また米国経済指標全体が改善してきておりそれはかなりの上昇材料になる。

ただ中国の経済政策に関しては当局や政治家の発言が割れておりその都度個別の材料にマーケットは反応している。

しかし基本スタンスとしては環境問題を含んだ

過剰生産の抑制やシャドーバンキング問題の解決などは明確化されたことからこれまでのような投機資金調達には期待できず、やや引き締め気味になるとの予測。

それらを踏まえた銅価格は、上値が7月前半高値付近からもう一段高の7200ドルを予測。下値は中国の引締めが行われた場合再び失望感から暴落する可能性が高く7月最安値の6700ドルを予測。為替はAve98円との予測から銅建値に関しては690-740円程度と予測。

Copper
“セツ”はALLOYの専門商社。

専門商社だから出来る豊富な品揃えと的確な在庫管理は進化を続ける、日本産業にもスピーディに対応します。

海、陸、空。そして未来へ...

“セツ”では特にアルミニウム青銅合金(アームスブロンズ)を重点にその優れた特性で様々な業界、あらゆる分野の発展に寄与。舞台は宇宙へ、深海へ。“セツ”は未来の要を支えます。

連続鋳造銅合金、ダイカスト製品ほか少ロット製品も迅速対応
 在庫常時600t・CopperALLOYのことなら

SSM 摂津特殊金属株式会社

〒534-0011 大阪市都島区高倉町3-1-19
 TEL 06(6926)3751 FAX06(6926)5557
 第二倉庫 大阪市都島区内代町4-6-22
 第三倉庫 大阪市都島区内代町4-6-4
<http://www11.ocn.ne.jp/~settu/index.html>

	4月	5月	6月		4月	5月	6月
輸出				輸入			
電気銅	4万4901t	4万8878t	4万774t	電気銅	5053t	1270t	5415t
前年比	-4.1%	+10.7%	-7.1%	前年比	+1.7%	-53.3%	+66.2%
スクラップ	2万8275t	2万7933t	3万127t	スクラップ	5170t	4851t	3964t
前年比	-11.7%	+21.4%	+31%	前年比	-28.7%	-38.3%	-28.7%

